

JFA U-18 審判員研修会 参加報告

兵庫協会 サッカー3級審判員 井上礼都

1. はじめに

7月30日から8月2日に福島県のJヴィレッジで開催された、U18 審判員研修会に参加させていただきました。日本サッカー協会の皆様、関西サッカー協会の皆様、兵庫県サッカー協会の皆様、このような研修会を開いていただいたこと、そして参加させていただいたこと誠に感謝申し上げます。

2. 目的

- ・選手、チーム、指導者、事業に関わる関係者様との交流やレフェリングを通して審判活動に刺激を与える
- ・集団生活を通して審判として必要とされる社会性、社交性に磨きをかける

3. 研修会テーマ

新たな気づきや学びを得たこと、次の試合にチャレンジしようと思うことを整理し、すぐ行動に移す

4. 研修会概要

- ・Refereeing

試合実践(主審3試合、副審3試合)

フィードバック

- ・試合観戦

インターハイ決勝

- ・Workshop

個人とグループワーク(情報共有、ディスカッション、発表)

5. 担当した試合の振り返り

7月30日(木)14時00分キックオフ JヴィレッジP1

富山第一 0-2 米子北 (0-1 0-1)

主審 井上礼都 副審 高久誠弘 氏(北海道) INS 和角敏之 氏(宮崎)

- ・振り返り

フィジカル、スピード、技術、全てが米子北の方が上回っており、米子北が攻めている時間が試合の大半を占めていました。また、どちらもフェアプレーだったためファウルの回数が少なかった。

試合後には、ビルドアップ時のポジショニングについてとても詳しく指導していただきました。重点的に言われたことは「自分の次の行動を楽にするため」ということでした。

- ・フィードバック

中盤でのポジショニング

選手との距離感 10m程度をキープする

サイドステップの効果的な活用

0から100へのスプリントではなく、0から10、20…のような段階的なスピード変化の意識をする

ペナルティエリアのポケットの見る位置の改善(もっと近い位置で)

→全ては「自分の行動を楽にするため」

7月31日 14時25分キックオフ J ヴィレッジ P2

福島 U-16 2-1 駒沢大高 (0-0 2-1)

主審 井上礼都 副審 山内一輝 氏(愛媛) INS 平石暁史 氏(北海道)

・振り返り

本研修会2試合目のこの試合は、前の試合の反省を生かし、中盤でのポジショニングを自分なりに実行してみることと、予期予測を意識して動き出しを速くすることをテーマに試合に臨みました。

この試合も両チーム共にフェアプレーだったため、ファウル数は少なかったですが、ファウルを取ったのちの対応をもっと改善することができると平石さんにご指導いただきました。

また、この試合を通して自分なりにずっと情報を取り入れて、考えながら試合を進めていることがすごく伝わるレフェリングだったと褒めていただきました。

・フィードバック

中盤でのポジショニング(もっと低い位置に取るべき)

→低い位置で奪われてのカウンターの方が怖いため、そちらのケアを優先した方が良い
ファウルを取った後の対応

リスタートの保証を絶対忘れない

8月1日 9時00分キックオフ J ヴィレッジ P2

西目 1-4 星稜 (1-1 0-3)

主審 井上礼都 副審 奈良健矢 氏(群馬) INS 牛尾眞一郎 氏(千葉)

・振り返り

この試合は本研修会における最後の試合ということで、前日の試合で意識できていた予期予測からの動き出しを継続しつつ、中盤でのポジショニングをより良くすることをテーマに試合に臨みました。

本試合は星稜がボールを握る時間が長く、西目の陣地で試合の大半が進みました。ただその試合の流れで、意識をしていないと勝手に高いポジションを取ってしまっており、星稜のディフェンスラインでボールを失い、そのまま西目がゴールするという場面で、ついて行くことが出来なかったことがこの試合の大きな出来事となりました。

・フィードバック

中盤でのポジショニング(もっと低い位置を意識する)

→DFラインで奪われてからゴールという可能性があることを考慮しなければいけなかった

ペナルティエリアの中の事象を見る位置はとても良かった

6. インターハイ決勝観戦研修

8月1日 12時30分キックオフ J ヴィレッジスタジアム

主審 中川 愛斗 氏 副審1 池田 七瀬 氏 副審2 佐藤 宥 氏 第4審判 荒井 雅貴 氏

・試合観戦をして

主審の中川さんは、1試合を通して走りに無駄がなく、スプリントの回数が試合を通して僕よりも少なかった

た。特にペナルティエリア内の事象や、レフェリーサイドにボールが流れた時に、あまり争点によろうとせずに、中央にとどまることが多いのは僕と違う動きをしていると感じました。

副審の池田さんと佐藤さんは試合を通して、主審と協力して円滑に試合を進められていました。特にフラッグのタイミングが毎回良かったのは、自分にも今すぐ意識して高めていける場所だと考えています。

7. Workshop

Workshop では全国から集まった審判員とその日試合で起きたことや、できたこと、良かったこと、生まれた課題などを共有して次の日の試合に繋げること、また更なるレベルアップをするためにどんなことをしていないといけないのかを話し合いました。3日間を通して、多くでできたことは、「予期予測から動き出しを速くする」ことでした。特にインターハイ決勝観戦をした日の夜には、自分たちと1級審判員の方々との違いを挙げて、更なるレベルアップのために Off the pitch と On the pitch の観点からどのようなことをしていけば、1級審判員に近づくことができるのかを考えました

8. 最後に

改めて本研修会を開いていただいたこと、そして参加させていただいたこと、誠に感謝申し上げます。僕にとって2度目のJFA研修でした。前回よりも自ら積極的にコミュニケーションを取ろうと意気込み、本研修会に参加し、全国の審判員の仲間とたくさん話や情報交換をすることができました。そして、全国にはたくさんの同年代の審判員の仲間がいることを改めて感じる事ができました。そんなたくさんの仲間に出会うことができたのは、本研修会における何事にも変えがたい財産となりました。

また、本研修会で担当させていただいた試合やWorkshopにおいて、新たな気づきや課題が生まれました。その課題ひとつひとつに真摯に向き合い、この先も審判員として人間として、もっと成長していくことができるよう精進して参ります。これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

